

客船でめぐらすべき名港と島々

長崎県 クルーズポート・ガイド

4つの大きな半島と、1000に近い島を擁する長崎県。
ここには客船が寄港できる港が8港もあり、
独自の歴史や文化、自然に出会うことができる。
それぞれの港の個性を紹介しよう。



長崎県クルーズ振興協議会 (クルーズながさき)
Cruise Nagasaki

<https://www.nagasaki-tabinet.com/houjin/cruise>



長崎港



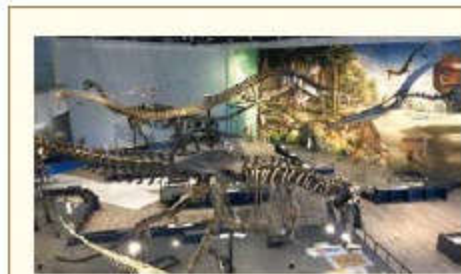
1,000万ドルの夜費は船上や高台などいろいろなところから見る事ができる。天候次第では上陸可能な「軍艦島」も観覧船「戦艦カステラ」は土曜にも



中華料理店や中国菓子・雑貨店など約40店舗が集う「新地中華街」



長崎県は全国有数のトラフグの養殖地でもある



家族連れにおすすめの注目施設「長崎市恐竜博物館」は2021年10月に開業

開港の歴史から続く世界的な美港。1571年に開港し、西洋との貿易で発展。江戸時代の鎖国時も唯一の西洋との窓口として産業や文化を受け入れ、近代化が進んだ。近年は国内外の客船に人気が高い。船で穏やかな湾を通り、長崎港に近づくと、異国情調が漂う港町と、山の急斜面に張り付くように並ぶ家々の景色に圧倒される。客船が停泊する長崎港松が枝国際ターミナルはグラブ・園や大浦天主堂へも徒歩圏内。路面電車を利用して出島や新地中華街、平和公園なども気軽に訪ねられる。観光ツアーもあり、近代産業を支えた世界遺産「浦島炭坑（軍艦島）」や湾内に並ぶ大小の造船所なども身近に眺めることができる。新名所になりそうな「長崎市恐竜博物館」（野母崎）では、恐竜と長崎のはるかな歴史も学べそうだ。食なら、ちゃんぽんや和洋中がミックスした卓袱が名物。その他長崎ならではのものを味わったり、個性的な土産を手に入れよう。出港前は、市内の高台や船上のデッキから、「世界新三大夜景」を誇る長崎の夜景を見ながら充実した長崎観光を締めくくりたい。

公園なども気軽に訪ねられる。観光ツアーもあり、近代産業を支えた世界遺産「浦島炭坑（軍艦島）」や湾内に並ぶ大小の造船所なども身近に眺めることができる。新名所になりそうな「長崎市恐竜博物館」（野母崎）では、恐竜と長崎のはるかな歴史も学べそうだ。食なら、ちゃんぽんや和洋中がミックスした卓袱が名物。その他長崎ならではのものを味わったり、個性的な土産を手に入れよう。出港前は、市内の高台や船上のデッキから、「世界新三大夜景」を誇る長崎の夜景を見ながら充実した長崎観光を締めくくりたい。

長崎8港



金石城精門(対馬) ©NPTA



川内峠(平戸) ©NPTA



長崎歴史文化博物館



佐世保バーガー ©NPTA



坂本龍馬像(上五島)



長崎平和祈念像(長崎)



教会のマリア像(五島)



雲山地獄(小浜) ©NPTA

佐世保港



1 世界でも最も美しい湾にも認定されている「九十九島」
2 佐世保新や中心市街地にも近い「佐世保港国際ターミナル」(三浦洋行)
3 佐世保パーガールに負けない人気の、ご当地グルメ「レモンステーキ」



日本最大級のテーマパーク「ハウステンボス」



重要文化財でもある「西海楼」、瀬頭地区からも近い1787年創業の「梅ヶ枝漬」



2021年3月オープンの「九十九島観光公園」。大パノラマを堪能できる

港町歩きから絶景、ハウステンボス満喫も

水深が深く穏やかな天然の良港として、軍港・商港と栄えた歴史を持つ佐世保港。JR佐世保駅から「佐世保港国際ターミナル」まで徒歩5分、港まわりには商業施設「させば五番街」や赤レンガ倉庫を改装した「BRICK MARKET L.S.A.S.E.B.O」などのショップもすぐ。中心街も近く、ご当地グルメも味わうことができる。多島海の絶景「九十九島」は港から車で15分ほどの「九十九島パールシーリゾート」から、カヤックやヨット、遊覧船でめぐることができる。佐世保市内に8カ所ある展望台や、新スポットの九十九島観光公園から眺めるのもいい。市街地から南東に向かえば、激しい急流と渦潮が見られる「西海橋」。そして日本最大級のテーマパーク「ハウステンボス」も近い。中世ヨーロッパの街並みや運河を再現した広大な敷地では四季折々の花やさまざまなアトラクション、ショッピングも楽しめる。ハウステンボスに近い瀬頭地区には新たなターミナルも完成し、東アジアを周遊する客船の佐世保寄港も期待できそうだ。



2020年完成！カーニバル社と国土交通省、佐世保市が官民連携により整備した瀬頭地区クルーズ埠頭(16万トン級客船対応)と旅客施設の「佐世保クルーズセンター」

雲仙市 小浜港

海と山の温泉と絶景を体験

温泉好きならぜひ訪ねたい雲仙市小浜町。小浜温泉は奈良時代初期に編纂された「肥前風土記」にも記されている歴史ある温泉地だ。雲仙店の西麓、橋湾に面しているため、海を眺めつつの温泉めぐりがかなう。長崎市からは車で約1時間。「湯めぐり札」を購入すれば、宿湯2軒、外湯2軒が利用できる

ため、日帰りでも気軽に訪れる人も多い。「本多湯太夫邸(小浜歴史資料館)」は小浜温泉の礎を築いた本多湯太夫の元邸宅(1844年建造)。土産を物色したり、庭園を臨む邸宅の縁側で飲食も可。小浜の、海の温泉(塩化物泉)を体験したら、雲仙国立公園内の標高700mの地にある、山の温泉である雲仙温泉(硫黄泉)へも足を延ばしたい(車で約20分)。「雲仙地獄」を中心に温泉宿が並び、地獄内の遊歩道など散策も楽しめる。四季折々の表情を見せる名山は美しく、明治時代から欧米人の保養地として繁栄した。

1「本多湯太夫邸」は小浜の歴史・交通・温泉を学べる曹がしい空間
2「雲仙口ブレイク」で雲仙国立公園を空中散歩
3温泉水を加えて焼き上げる「湯せんべい」
4小浜温泉にある日本一長い105メートルの足湯「ほっと3つと105」



大規模な改修を終えた「平戸城」。天守閣の展示コーナーは、最新のデジタル技術を採用した展示空間だ。船のひとつ「南蛮船」は常設の保泊施設(船泊)に



平戸市 川内港

教会と寺、壮大な自然が共存

長崎県の北西に位置する平戸市は、日本の陸路の最西端に位置する。平戸藩主・松浦家の城下町で、古くは中国大陸との交易、16世紀にポルトガル船、その後オランダ船、イギリス船も訪れ、南蛮貿易の港として栄えた。フランシスコ・ザビエルが長崎で初めてのキリスト教布教拠点とした場所だ。南蛮

貿易が長崎市の出島に集約されるまで、平戸は異国の文化の発信地であった。キリスト教徒も密教に翻弄されたが、明治以降は平戸の地にも教会が次々と建立された。現在「平戸の聖地と集落」など2カ所が潜伏キリシタン関連の世界遺産になっている。松浦藩主居城の「平戸城」や、空海ゆかりの「最教寺」などの仏閣も共存する平戸は、橋でつながる生月島もあり、高原や切り立った断崖など壮大な自然も多い。美食も魚介から平戸牛と実に豊か。佐世保港から車で約40分、観光エリアとして訪ねることが可能だ。

クやヨット、遊覧船でめぐることができる。佐世保市内に8カ所ある展望台や、新スポットの九十九島観光公園から眺めるのもいい。市街地から南東に向かえば、激しい急流と渦潮が見られる「西海橋」。そして日本最大級のテーマパーク「ハウステンボス」も近い。中世ヨーロッパの街並みや運河を再現した広大な敷地では四季折々の花やさまざまなアトラクション、ショッピングも楽しめる。ハウステンボスに近い瀬頭地区には新たなターミナルも完成し、東アジアを周遊する客船の佐世保寄港も期待できそうだ。

五島市 福江港

海山の絶景と神の島

大小約152の島々からなる五島列島の最南端に位置する五島最大の福江島（五島市）。その昔、中国に向かう遣唐使が日本で最後に立ち寄る場所でも、遣唐使船や空海ゆかりの地が点在している。港近くには、現在第35代まで続いている五島藩の福江城（石田城）や国指定名勝の五島氏庭園、武家

屋敷通りなど歴史的な見どころが多い。一方で、れんが造りの「堂崎教会」に代表されるように、キリシタンの歴史も混じり合う。福江港から奈留島や久賀島の教会めぐりの観光船も出ている。

島の西端、大瀬崎の断崖とその先瀬の灯台（日本の灯台50選）のひとつ）から、標高315メートルの緑に覆われた火山「鬼岳」まで、ダイナミックな自然を擁する島である。五島列島は古くから自生する樹も多く、椿油の製品も人気。木揚げされたばかりの魚介ではキラキラと光る「キビナゴ」を刺身で味わってみたい。



1



2 3 4 5

1 船シナ海を航海する船舶の標となっていた「大瀬崎灯台」 2 武家屋敷通りにはスタジオジブリの作品を手がけた五島市出身の「山本二三美術顧問」もある 3 キリシタンの歴史も学べる「堂崎教会」

新上五島町 青方港

折りの島と美しい海

白砂と透明度の高い海岸が存在し、複雑で変化に富んだ地形の上五島。五島列島の北部に7つの有人島と60の無人島から構成されており、20もの教会が点在する。「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産「頭ヶ島の集落」からも考察できるように、小さな島の目につくにくい場所

長い間キリスト教が伝えられてきた。キリスト教解禁後に建てられた教会は建築様式もそれぞれなので、歴史や信仰に想いを馳せながら教会めぐりをしたい。中通島の高台にある「桐教会」からはエメラルドグリーン色の瀬戸を眺めることができる。

上五島は神社・仏閣も多く神楽も盛ん。奈良尾神社の御船670年「あこら餅」は根が二股に分かれ、天然の島居のよう存在だ。島の椿を使った椿油や五島うどんが特産。五島うどんを食べた後は干し芋ともち米を混ぜた饅頭菓子「かんころ餅」をどうぞ。



6 7 8

6 教会のステンドグラス柄のブックカバーや樽油「つばきネコ」グッズも土産に 7 細麺ながらも強いコシのある「五島うどん」は「日本三大うどん」のひとつ 8 五島牛も外せないが新鮮な「キビナゴ」も食したい



9



10

9 島の天然記念物「あこら餅」 10 世界遺産の「頭ヶ島の集落」内にある「頭ヶ島天主堂」 11 「船浜海水浴場」は日本の水浴場88選のひとつ

香城市 郷ノ浦港

古代日本や神話が残る美味なる島

弥生時代からの遺跡が残る歴史の島、岩崎「魏志倭人伝」や「古事記」にも記されているこの島は、国の特別史跡「原の辻遺跡」や280基もの古墳が今も残る。原風景に溶け込むように高台に建てられた「二支国博物館」では、古代から中国大陸などと交易で栄えた時代と、現代とを、線や興

味深い展小で知ることが出来る。古代遺跡に加え、自然が造った鐘岩など奇岩や、洞窟により、岩崎には鬼に関係する神話も多い。神社も多くあり、格調高い「岩崎神楽」が継承されている。干潮時にしか渡れない「小島神社」は訪ねてみたい場所のひとつ。神々しい立地にあるこの神社は知る人ぞ知るパワースポットだ。

島北部の勝本浦はその昔、朝鮮外交や捕鯨で栄えた漁師町。現在は海の幸や山の幸が飛び交う朝市があり、今も名物である麦焼酎と、ウニ丼や新鮮な魚介を味わおう。



対馬市 厳原港

大陸との架け橋であり自然の宝庫

九州の最北端に位置する対馬は、南北82キロメートル、東西18キロメートルの細長い「国境の島」。中国大陸からは稲作、仏教、漢字などが伝わり、朝鮮半島との間では貿易交流が盛んだった歴史を持つ。韓国の釜山までわずか50キロメートルのため、国防の最前線となる時代もあった。

海の玄関口は島の南東に位置する厳原港。港周辺は江戸時代の藩主、対馬宗氏の居城があった倉石城門や、宗氏の菩提寺「万松院」の薬所と本堂などがあり、周囲は城下町の風情が今も残る。島中部の浅茅湾近くには「和多都美神社」があり5つの島居のうち2つが海の中に建つ。

島独自の生態系も多い。希少な「ツシマヤマネコ」や「対馬馬」は島の北部で保護活動が行われている。日本有数の水揚げを誇るアナゴ、原本しいたけ、野生の日本ミツバチの天然はちみつなど、土産にしたい対馬の味が豊富にそろわう。

高さ45メートルの「巖壁」

絶滅危惧種のツシマヤマネコ

1

2

3

4